

## 株主優待制度

当社は、株主の皆様の日頃のご支援とご要望にお応えするとともに、当社株式への投資魅力をさらに高めるため、株主優待制度を導入しております。

### 対象株主様

毎年3月31日の最終の株主名簿に記載された、1単元(100株)以上の株式を保有している株主様を対象

### 発送時期

毎年6月開催の定時株主総会終了後、決議通知に同封して発送

### 当社株式保有期間が1年未満の株主様

QUOカード

- 1 500円相当の当社オリジナルQUOカードの贈呈



### 当社株式保有期間が\*1年以上継続保有の株主様

- 1 1,000円相当の当社オリジナルQUOカードの贈呈



寄付

- 2 公益財団法人「緑の地球防衛基金」への寄付 (株主様1人あたり50円)
- 3 認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」への寄付 (株主様1人あたり60円)

- 2 公益財団法人「緑の地球防衛基金」への寄付 (株主様1人あたり50円)
- 3 認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」への寄付 (株主様1人あたり60円)

\*1年以上継続保有とは、3月31日を基準日として同日最終の株主名簿に同一株主番号で、1年以上記録されている状態をいいます。なお、全株式を売却後、再度購入された場合や、貸株制度の利用等により、株主番号が変更になった場合は、継続保有とみなされませんのでご注意ください。

第115期  
(2017年3月期)  
寄付額

- 公益財団法人「緑の地球防衛基金」への寄付 (株主様1人あたり50円) ▶▶ 寄付額 736,950円
- 認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」への寄付 (株主様1人あたり60円) ▶▶ 寄付額 884,340円

## ホームページのご案内



ニュースリリースやIR資料等の最新情報をご提供しています。

<http://www.rasaco.co.jp>

ラサ商事

検索

# RASA REPORT

CORPORATION

株主・投資家の皆様へ | 第115期 報告書 | 2016.4.1 ▶▶ 2017.3.31

海を越えて…

# ラサ商事は現在、中期経営計画「Next Stage Rasa 2018～80周年への布石～」を押し進めております。

代表取締役社長

井村周一

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループは、当期(2017年3月期)より新中期経営計画『Next Stage Rasa 2018～80周年への布石～』を始動いたしました。

中計初年度の当期の連結業績は、資源・金属素材関連事業において不採算取引の見直しを行ったことなどが影響し、売上高は減収となりましたが、利益面では増益基調を確保するとともに、当期の中計目標値に対してもすべてで上回ることができました。

また、戦略展開におきましても、「収益基盤の更なる強化」など重点施策を着実に押し進めることで、各事

業の収益基盤の強化が進み、事業間シナジー創出の基礎も次第に整ってまいりました。加えて、「経営基盤の更なる強化」の一環として、次期(2018年3月期)より、監査等委員会設置会社へ移行し、コーポレート・ガバナンスの更なる充実を図ってまいります。

株主の皆様への利益還元につきましては、当期の年間配当金を前期比9円増配の24円とさせていただきます。

株主の皆様には、引き続き当社グループの経営にご理解とご支援のほどお願い申し上げます。

2017年6月



## ラサ商事の企業理念

世界に通用する一流技術商品と有用な価値ある資源を国内外に販売し、豊かな社会に貢献

トップ・インタビュー

## 経常利益と当期純利益は過去最高益を達成いたしました。中期経営計画のもと、更なる成長を目指してまいります。

### Q 当期の連結業績が、減収ながらも増益となった要因は何ですか。

当期の連結業績は、資源・金属素材関連事業で不採算取引の見直し等を行った結果、前期比1.9%の減収となったものの、利益面では営業利益が同2.7%増、経常利益が9.9%増、親会社株主に帰属する当期純利益が同42.8%増となりました。

営業増益の主な要因は、環境設備関連事業が好調であったこと、プラント・設備工事関連事業や化成品関連事業が堅調に推移したことによります。特に、環境設備関連事業では、高圧ピストンポンプ関連など主力商品が好調に推移し、セグメント営業利益は前期比56.7%増と大きな増益幅を示しました。

経常増益の主な要因は、関連会社「大平洋機工(株)」の持株比率を25.5%から45.5%に高めたことで、持分法による投資利益が倍増したことなどによります。なお、大平洋機工との間では、人事交流を実施し、製販一体の製品開発強化など事業間シナジー創出に向けた取り組みを積極的に行っており、今後、そうした成果が双方の業績面にも反映してくるものと期待しております。

なお、純利益増加の主な要因は、遊休不動産の売却益や税負担の軽減などによるものです。

### Q 中期経営計画の進捗状況として、重点施策である「収益基盤の更なる強化」の取り組み状況はいかがですか。

資源・金属素材関連事業では、不採算取引の見直しに取り組んでおりますが、次期(2018年3月期)中には見直しを終え、赤字からの早期脱却を図ります。

産機・建機関連事業では、将来的な需要拡大が見込まれるBCP関連製品として多目的可搬式ポンプ「BETSY」(P6関連記事参照)を2016年に販売開始し、多くの自治体などから引き合いをいただいております。今後、レンタル販売などの手法も取り入れ、販売実績の積み上げを図ってまいります。

環境設備関連事業では、従来より新市場開拓に取り組んでまいりました「石炭ガス化複合発電(IGCC)」向けに、このほど「ラサ・システム」(水砕スラグ製造設備)を受注することができました。

プラント・設備工事関連事業では、子会社「旭テック(株)」の新工場が2017年4月より稼働開始いたしました。これにより、より高い品質を要する配管の加工が容易となることから、収益拡大に貢献していくものと期待しております。

化成品関連事業では、海外生産移管を進める顧客企業も少なくないことから、こうした変化に的確に対応し、新たな海外需要の取り込みを図ってまいります。

不動産賃貸関連事業では、遊休資産であった子会社「イ

ズミ(株)」の飯能工場跡地を売却し、賃貸物件への買換えを行い、不動産ポートフォリオの最適化を図りました(P5関連記事参照)。

### Q 事業間シナジー創出の取り組みについてはいかがですか。

当社と旭テックとのシナジー創出の取り組みが成果を出しつつあります。双方の顧客基盤の共有化を進めるなかで、相互に顧客企業を紹介する取り組みにより、実績も上がってまいりました。既に受注済の案件が数件、営業活動中の案件が10数件に上っており、東京オリンピック・パラリンピックの競技場施設の設備工場の引き合いもきております。

また、旭テックは、当社グループの一員となったことで、借入費用が大幅に減少しており、買収前と比較すると8割ほど費用が減少しています。



### 最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

次期は中計2年目となります。資源価格の低迷等により売上高は厳しい状況が続くことが予想されますが、シナジー効果やコスト削減等連結経営の効率化を推進することによって、中計比で減収増益の予想をしております。「創立80周年」となる中計最終年度(2019年3月期)に向け、グループ一丸となって邁進してまいります。

株主の皆様への利益還元につきましても、引き続き重要な経営課題の一つと捉え、当期に引続き、年間24円、配当性向24.1%を予想しております。

株主の皆様には、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。



TOPIC

## バランスの取れた情報発信を目指し、個人投資家向け会社説明会を積極的に開催

当社は、バランスの取れた情報発信を目指すなか、個人投資家向け会社説明会を2016年度は福岡(2016年12月)、東京・大阪(2017年3月)と計3回行いました(いずれも大和インベスター・リレーションズ主催)。多勢の個人投資家の皆様にご出席いただき、当社の概要や成長戦略、株主還元などについてご説明させていただきました。

今後も、このような「当社をご理解いただく活動」を積極的に進めてまいります。

当社ウェブにて説明会の資料がご覧いただけます

Home >> IR情報 >> IRイベント >> 決算説明会  
<http://www.rasaco.co.jp/ir/event03.html>





ラサ・リアルエステート株式会社  
代表取締役  
ラサ商事株式会社  
常務取締役 経営企画室長

大岡 隆

ラサ・リアルエステート株式会社  
会社概要

本 社 東京都中央区  
日本橋蛸殻町一丁目  
11番5号  
設 立 2015年2月2日  
代 表 代表取締役 井村 周一  
代表取締役 大岡 隆  
株 主 ラサ商事株式会社(100%)

## グループ遊休地の更なる有効活用を推し進め、 グループ収益の安定化に寄与してまいります。

ラサ商事グループの不動産賃貸関連事業の開始は、2つの大きな経営判断に端を発しております。一つが、ラサ商事の本社ビル建設であり、もう一つがM&Aによる「イズミ(株)」と「旭テック(株)」の子会社化です。2011年10月の本社ビル竣工を受けて、同ビルの一部フロアの賃貸を開始し、2012年1月のイズミ子会社化に伴い、同社保有不動産の有効活用化に着手しました。イズミ(株)の本社機能をラサ商事本社ビルへ移転することで、日本橋本町にあるイズミビルを100%収益物件化しました。

ラサ商事グループの保有不動産を効率的に一体管理するため、2015年2月に「ラサ・リアルエステート(株)」を設立し、ラサ商事とイズミの保有不動産を承継、さらに、2016年3月に旭テック(株)所有不動産の一部も承継いたしました。

現在、ラサ・リアルエステート(株)が管理する賃貸不動産は、下図のように、東京、埼玉、千葉の1都2県にまたがっており、年間3億円超の売上、1億円超の営業利益を計上する規模となっております。2017年3月には遊休化した飯能工場跡地を有効活用するため、同跡地を売却し、新たな収益物件への買換えを行いました。これにより、次期からの収益性が更に高まるものと見込んでおります。

今後も、八潮駐車場の有効活用をはじめとして不動産ポートフォリオの再構築を行い、グループ収益基盤の安定化に寄与し、ラサ商事グループの業績に貢献してまいります。

■ グループ遊休地の活用状況と今後の主な計画

2017年3月期の取り組み

埼玉県飯能市 飯能工場跡地の有効活用  
イズミ(株)の飯能工場跡地を売却し、  
新たな定期借地権付き賃貸物件を購入

新規購入物件データ

物 件 上野毛 借地権付土地  
所 在 地 東京都世田谷区上野毛  
物件特徴 定期借地権付き賃貸物件  
・現在、大手コンビニへの賃貸物件  
・年間約2,000万円の安定収益

主な賃貸不動産等(2017年3月末現在)

- 埼玉県
  - 上尾市 緑ヶ丘駐車場
  - 上尾市 今泉駐車場
  - 八潮市 八潮駐車場
- 東京都
  - RASA日本橋ビル
  - イズミビル
  - イズミビル隣地駐車場
  - 上野毛 借地権付土地
- 千葉県
  - 市原市 岩崎西物件
  - 市原市 桜台物件



津波・高潮・ゲリラ豪雨による浸水・洪水時などBCP対策にも力を発揮!

## 新型多目的モバイルポンプユニット 「BETSY ベッツィー」

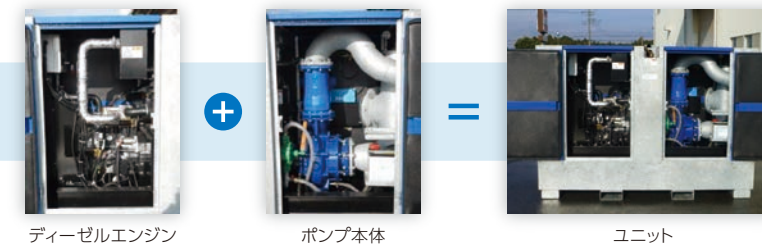
昨年5月の発売以来、BCP対策を推し進める全国の行政などから多くの引き合いとご購入をいただいております。

「BETSY」は、無閉塞型ポンプとディーゼルエンジンを一体化(ユニット化)。雑多なゴミや草木などを含む汚水や汚泥を吸い込んでも、直径が100mm、変形するものなら多少大きい異物を吸込んでもポンプが閉塞(詰まること)しません。吐出量は1時間当たり約230t(全揚程\*1が約20mの場合)とパワフルで、ディーゼルエンジンとの一体化により約160時間(約6日)\*2の連続運転が可能。オペレーションも簡略化が図られ、専門知識が無くても簡単に操作でき、しかも自動制御運転も可能です。

平常時の使用はもちろん、BCP\*3対策として津波・高潮・河川氾濫・ゲリラ豪雨等による浸水現場や冠水エリアの緊急排水、地下貯留ピットに貯まった汚水・汚泥や雨水の排水、上下水道等工事現場での水替え工事、仮設排水、農業用灌漑用水の汲み上げ、さらには工場・プラント等での排水ピットに溜まった汚泥等の浚渫・洗浄や停電した時の緊急用途等として幅広く活用できます。

\*1 水を揚げる高さ \*2 運転条件により変動 \*3 Business Continuity Plan(事業継続計画)

### BETSY = Bifunctional Efficient Transfer-pump System



ディーゼルエンジンとポンプ本体の一体化により、  
連続約160時間の  
運転を実現!

特長

- 自吸式無閉塞型ポンプの採用で異物が詰まりにくい ※呼び水不要
- コンパクト設計だから牽引・積載が容易
- ディーゼルエンジンの採用で低燃費、且つ静音設計 ※電源不要
- 水位変動を検知して自動制御運転が可能

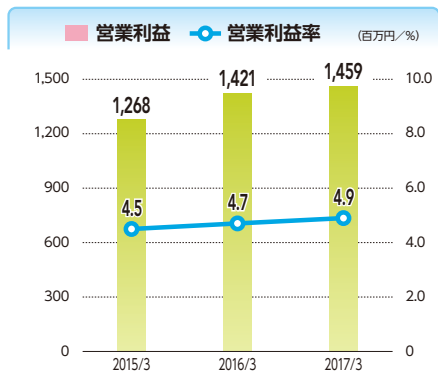
用途

- 津波・高潮・河川氾濫・ゲリラ豪雨による浸水・冠水エリアの緊急排水
- 地下貯留ピットに貯まった汚水や雨水の排水
- 工事現場での仮設排水
- 農業用灌漑用水の汲み上げ
- 下水道管路工事での汚水・汚泥の水替え工事 他

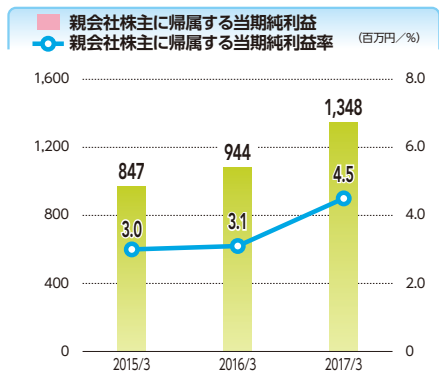
損益の状況 … 減収となったものの、利益面では前期比増益となり、計画比でも大幅に上回りました。



環境整備関連、プラント・設備工事関連、不動産賃貸関連が増収となったものの、資源・金属素材関連、産機・建機関連、化成品関連は減収となり、売上高は、前期比5億85百万円(△1.9%)減収の299億37百万円となりました。中期計画に比べ20億63百万円(△6.4%)計画を下回りました。

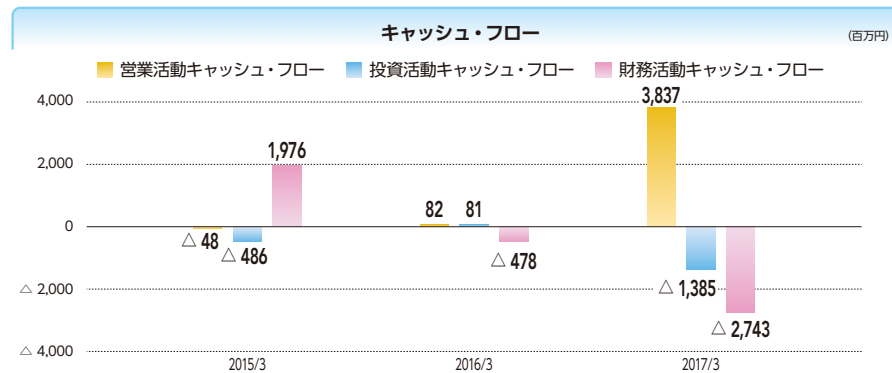


売上高は減収となったものの、販売費及び一般管理費の効率向上から、営業利益は、前期比37百万円(2.7%)増益の14億59百万円となりました。中期計画に比べ6億9百万円(71.6%)計画を上回りました。

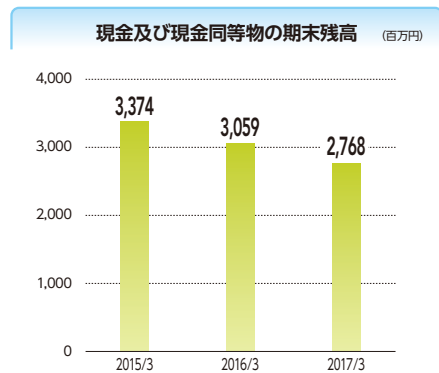


親会社株主に帰属する当期純利益は、遊休不動産の売却益や税負担の軽減などから、前期比4億4百万円(42.8%)増益の13億48百万円となりました。中期計画に比べ7億40百万円(121.7%)計画を上回りました。

キャッシュ・フロー … 営業活動によるキャッシュ・フローは大幅な収入増となりました。

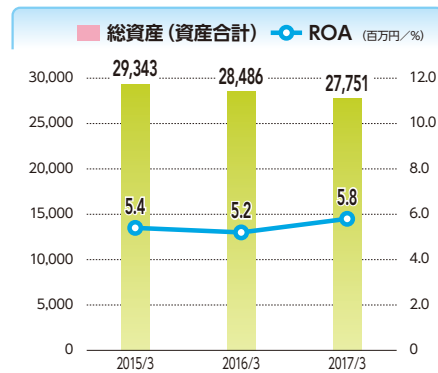


営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払があったものの、税金等調整前当期純利益の増加、たな卸資産の減少による資金の増加等により38億37百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出、関係会社株式の取得による支出等により13億85百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済、社債の償還、自己株式の取得による支出等により27億43百万円の支出となりました。

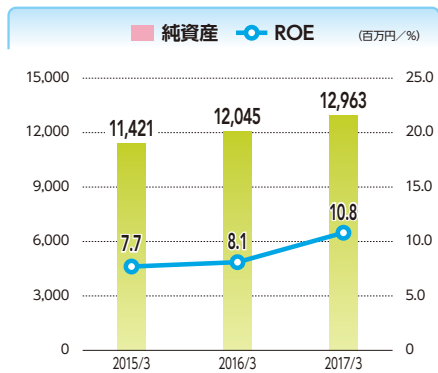


営業活動による資金が増加したものの、投資活動による資金、財務活動による資金が減少したことで、当期末における現金及び現金同等物の残高は前年同期に比べ2億90百万円減少の27億68百万円となりました。

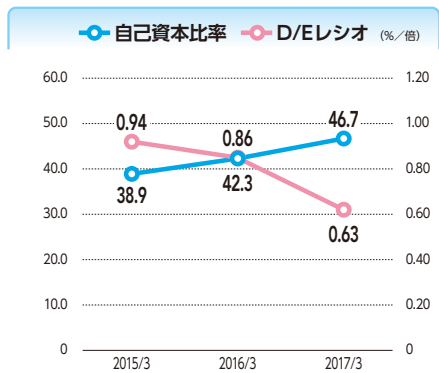
財政状態 … 純資産が増加したことなどにより、自己資本比率が更に向上しております。



資産の部では固定資産が増加(投資有価証券の増加など)した一方で、流動資産が減少(商品及び製品、未成工事支出金の減少など)、また、負債の部では短期借入金が増加し、総資産は前期末比7億35百万円減少し277億51百万円となりました。



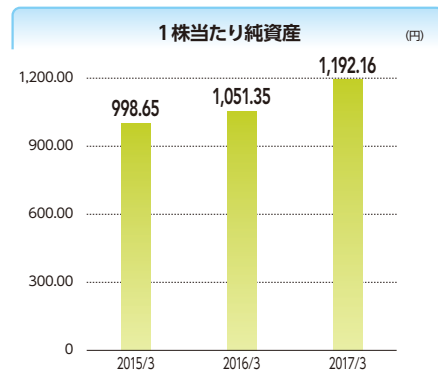
利益剰余金が11億76百万円増加したことなどにより純資産は、前期末比9億17百万円増加し129億63百万円となりました。ROEは同2.7ポイント上昇し10.8%となりました。



自己資本比率は、前期末比4.4ポイント上昇し46.7%となりました。D/Eレシオは有利子負債の減少(22億8百万円)により0.23ポイント改善し0.63倍となりました。

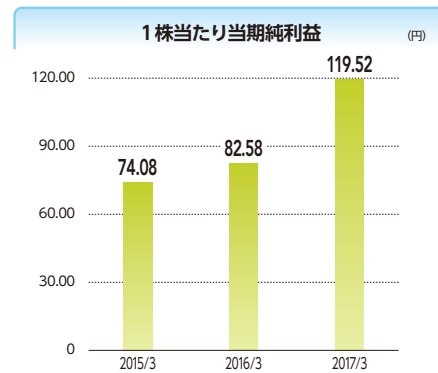
※ D/Eレシオ=有利子負債÷自己資本

配当金など … 当期の年間配当は前期比9円増配で実施させていただきました。



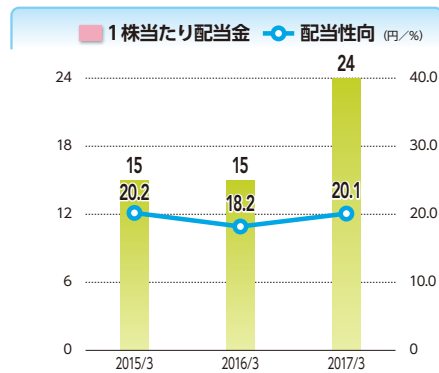
会社の資産価値を見る指標の一つである「1株当たり純資産」は前期末比140.81円増加し1,192.16円となりました。なお、当社株式の当期末終値(2017年3月31日)は717円であり、PBRは0.60倍という水準にあります。

※ PBR=株価÷1株当たり純資産



投資価値を判断する指標の一つである「1株当たり当期純利益」は、119.52円となりました。なお、PERは当期末終値ベースで6.0倍という水準にあります。

※ PER=株価÷1株当たり当期純利益



当期の配当金は、1株当たり中間で7.5円、期末で16.5円、年間で前期比9円増配の24円とさせていただきます。なお、次期の年間配当も当期と同額を予想しております。

# 2017年3月期 事業別の営業成果のご報告 (連結)

\*円グラフは売上高構成比(セグメント間の内部売上高を含む合計金額300億62百万円を分母として算出)

## 資源・金属素材関連事業 31.0%



世界的な政治の混乱などが实体经济へ波及し、資源需要が全般的に低迷したことにより同事業の売上高は前期比12.6%減収の93億3百万円、営業利益は1億32百万円の損失(前年同期は5百万円の損失)となりました。

## 産機・建機関連事業 25.4%



各種ポンプ類の販売は堅調に推移したものの、前年度、大口案件のあったワーマンポンプが一段落したことや建設機械類が低調に推移したことなどから同事業の売上高は前期比4.6%減収の76億48百万円、営業利益は同12.5%減益の14億34百万円となりました。

## 環境設備関連事業 6.1%



高圧ピストンポンプ関連商品をはじめ、各種主力商品が堅調に推移したことから、同事業の売上高は前期比40.1%増収の18億37百万円、営業利益は同56.7%増益の3億71百万円となりました。

## プラント・設備工事関連事業 15.0%



大口受注工事が完工したことなどから、同事業の売上高は前期比25.4%増収の45億1百万円、営業利益は特に大口工事の競争が激しく、売上の増収に比べ厳しい運営となったことから、同9.8%増益の2億76百万円となりました。

## 化成品関連事業 21.5%



自動車関連及び一部電線業界が堅調に推移したものの、原油価格の低迷から販売価格が低下したため、同事業の売上高は前期比4.5%減収の64億65百万円、営業利益は販売の効率化や資産譲渡などによる経費削減効果などから同54.9%増益の1億30百万円となりました。

## 不動産賃貸関連事業 1.0%



当社グループ全体での一体運営を徹底したことから、同事業の売上高は前期比1.1%増収の3億4百万円、営業利益は同0.1%減益の1億10百万円となりました。

# 会社情報・株式情報 (2017年3月31日現在)

### 会社の概要

社名 ラサ商事株式会社  
 設立 1939(昭和14)年1月10日  
 資本金 18億54百万円  
 本社 〒103-0014  
 東京都中央区日本橋蛸殻町一丁目11番5号  
 RASA日本橋ビルディング  
 TEL (03) 3668-8231 FAX (03) 3669-1729  
 売上高 299億37百万円(2017年3月期)(連結)  
 従業員数 248名(連結)、188名(単体)  
 会計監査人 監査法人大手門会計事務所  
 許可 特定建設業許可  
 (機械器具設置工事業・電気工事業)  
 古物商許可

### 取締役 (2017年6月28日現在)

代表取締役社長 井村 周一 取締役 中西 俊雄  
 専務取締役 伊藤 信利 取締役 本間 丈大  
 常務取締役 大岡 隆 取締役 監査等委員 世良 孝司  
 取締役 小山 文男 取締役 監査等委員 柿原康一郎\*  
 取締役 土屋 修 取締役 監査等委員 森脇 幸治\*  
 取締役 窪田 義広

\*独立社外取締役であります。

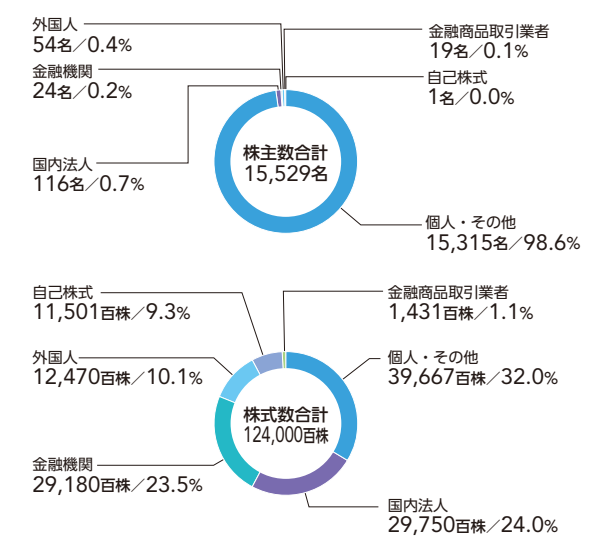
### 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 毎年6月下旬  
 基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
 中間配当 毎年9月30日  
 単元株式数 100株  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社  
 郵便物送付先 〒168-0063  
 東京都杉並区泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (電話照会先) ☎ 0120-782-031  
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の  
 本店および全国各支店で行っております。  
 上場金融商品 東京証券取引所市場第一部  
 取引所 (証券コード：3023)

### 株式の状況

発行済株式の総数 12,400,000株  
 株主総数 15,529名

### 所有者別株式分布状況



### 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
大平洋金属株式会社	1,040,000	8.38%
MSIP CLIENT SECURITIES	720,000	5.80%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	649,200	5.23%
アトラス コプコ コンストラクション ツールズ エイビー	400,000	3.22%
日本生命保険相互会社	370,000	2.98%
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	370,000	2.98%
東京海上日動火災保険株式会社	360,000	2.90%
クニミネ工業株式会社	290,000	2.33%
大平洋機工株式会社	207,000	1.66%
三機工業株式会社	200,000	1.61%

(注) 当社は自己株式を1,150,100株(9.27%)保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。